

## はじめに

人口減少社会のなかで、女性の活躍が求められている。性差を超えて、ひとりひとりが自分のもつ潜在能力を最大限活かして社会に貢献する時代が来ている。

それを実現させ、グローバル社会で存在感を増している女性がいる。本報告書はそれらの女性達の生き様を、詳細なヒアリングを通して、生い立ちから事業の立ち上げ、更には現在に至るまでを追っている。

今までの日本の女性労働政策は、学校を卒業し、最初に就いた職業を継続することを前提として展開されてきた。しかし、実際に最初に就いた職業を継続している女性は少ない。首都圏の高学歴女性だけに限定しても2割にも満たない。多くの女性たちは転職をしたり、再就職をしたり、一部の人は起業をしたりしている。

起業している女性の多くは、卒業時に高いキャリア意識をもち、仕事を通じて成長し、ビジネスチャンスを見つけているだけでなく、そこから社会問題を解決するための方策を見つけようとしている。

このような21世紀の新しい時代の担い手が一堂に会したのが2016年11月23日に開催されたシンポジウムであった。そこに参加して何よりも感動したのは、参集した女性たちの多くが社会にイノベーションを起こしているということだ。

人口減少社会を乗り切る鍵は、社会にイノベーションを起こすことだと言われ続けて久しい。しかし、それを実現させているロールモデルを今まで実際に目にすることは稀であった。

なぜこんなにダイナミックな生き方をしている素敵な女性たちが今まで日本社会でもっと注目を浴びてこなかったのだろうか、そう感じたのは私だけではないと思う。

このプロジェクトのメンバーであり、基調講演をされた奥田浩美さんによると、講演後に若い女性たちから、「(ルールから)外れてもいいんですね」というコメントを聞くことがあるのだという。

私たちは、知らず知らずのうちに自分たちの生き方を社会が求める理想に近づけようとして、逆に自らの可能性を狭めてしまっていたのかもしれない。21世紀はもっと自由に発想し、世界に羽ばたき、異なった意見をぶつけ合って新しいイノベーションを起こしていく時代なのだ。

それを最先端で実行し、夢を実現させている女性たちのリアルな姿を多くの方に知っていただきたい。そんな熱い思いを込めて、この報告書は作成されている。とくにこれから社会に羽ばたく若い方々に手に取って頂きたい1冊である。

2017年3月



アジア・太平洋輝く女性の交流事業調査検討委員会  
委員長 大沢 真知子